

インターバンクの声（2017年5月16日）

週末の低調だった米経済指標の発表に続き、世界的な広がりを見せているサイバー攻撃が週明けの日本もターゲットにされるのではとの懸念もあって、昨日の東京市場のスタートはドルが軟調に始まった。

ただ、130円安で寄り付いた日経平均が下げ幅を縮小させ始めたことや、予想以上に減速した中国の小売売上高の発表にもドル売りの反応が小幅に留まり、113円台前半でドルが底堅くなり始めた。さらにサイバー攻撃の影響も限定的だったことも影響したのか、ロンドン勢が参入する頃には113円70銭台までドルが買い戻された。

その後、113円台半ば前後で取引が続いたが、ニューヨーク州製造業景況指数が予想を大幅に下回りマイナスに悪化、再び113円台前半までドル売りが進んだ。

それでもNYダウが堅調な動きを見せていた上に米長期金利もわずかだが上昇に転じ始めたこともあり、112円台への下落は避けられた。

昨夜は週末に続き低調な米経済指標の発表にも大幅なドル売りにはならなかったが、今晚もニューヨーク時間に米国の住宅関連指標の発表があり、3日連続の弱い指標結果になるようだとドルの下値が心配だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。